

令和 6 年度良好な環境創出活動推進モデル事業

**森と水の共生・岩魚養殖と水環境体験ツアー
報告書**

2025年2月

株式会社さとゆめ・小海町

I . 活動地域～地域の特徴と活動背景・ねらい・取組～	2
II . モデル事業の実施内容	7
III . 成果と今後の課題・展望	22

I. 活動地域

～地域の特徴と活動背景・ねらい・取組～

北八ヶ岳の麓、自然豊かな小海町
森と水の共生・岩魚養殖と水環境体験ツアー

長野県小海町 【こうみ-まち】

長野県小海町は、八ヶ岳連峰の裾野に広がる水と緑に恵まれた町で、その自然景観は県内でも指折りであり、松原湖高原を中心に観光で栄えてきた地域です。

これまで町では、ヨーロッパの自然保養地を見本に、これまで観光に使用してきた自然資源を、人々の保養（憩いの場）に利用し、新しい魅力を創造する「憩うまちこうみ事業」を展開してきました。

この事業は、森林セラピーやヨガ、星空観察・焚き火体験などを組み合わせた独自のヘルスツーリズムプログラム（Re・Designセラピーという）を確立して、住民をセラピストとして育成し、飲食店や宿泊施設でも健康に配慮した料理の提供ができるように事業展開を図ってきました。



Re・Designセラピー

小海町の「Re・Designセラピー」は、リラックス、瞑想、コミュニケーション、デトックスの4つ要素を組み合わせ、はたらく人の「気づき」にアプローチします。



自然を満喫し、五感を研ぎ澄ます



自身の状態を知り向き合う時間



人とのふれあいで新たな気づき



地産地消の体にやさしいメニュー

「憩うまちこうみ」事業発足の背景

平成28年度 町民が中心となり「憩うまちこうみ」事業が発足

関係人口 創出のためのターゲット

都市部企業 に設定
B to Bのビジネスモデル

都市部企業の利用ニーズを満たす
プログラムの開発がスタート

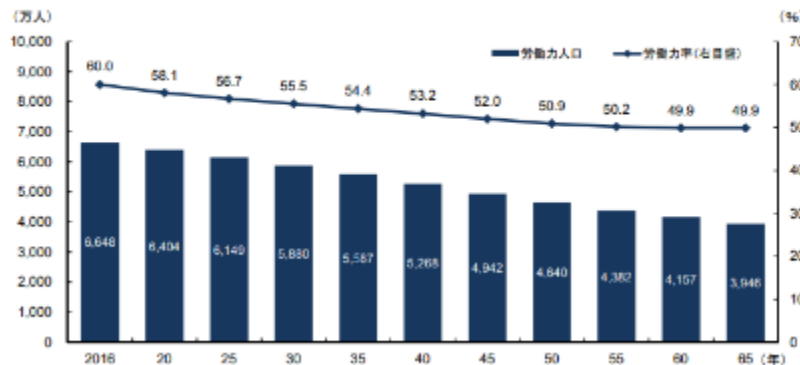


着眼点

都市部企業の課題である **働き方改革** と **健康経営**

少子高齢化に伴う、生産年齢人口の減少

図表2 労働力人口と労働力率の見通し



そこで...

- 労働人口を増加させる
- 長時間労働・雇用形態の格差など労働環境の改善
- 労働生産性を向上させる

【課題】労働力の減少 (= 働き手不足) と 生産力の低下

出典：みずほ総合研究所 2017年

ポイントとなるのが… **従業員(働くひと)の心とからだの健康**
社員の健康状態は、生産性の向上を目指す中で大前提の条件



POINT!!

都市部では「働くひとの心とからだの健康の維持・増進」が課題となっている。

豊かな自然や健康な食、観光地がある小海町にお手伝いできないだろうか？

社員が憩い、町民が元気になるまちづくり **長期的な連携を見据え、ターゲットを企業に設定しています。**

憩うまちこうみ事業では、事業趣旨にご賛同いただいた企業の皆様と協定を結び、従業員の皆様のこころとからだの健康増進と、町と企業との交流によるまちづくりの推進を目指しています。

経済効果をもたらし町に活気を生む

「攻め」の福利厚生

社員同士の絆を深め、家族と一緒に自然体験など攻めの福利厚生を実現できます。



社員の意識・技能向上

セラピープログラムを通じてコミュニケーション能力や環境意識が身につきます。



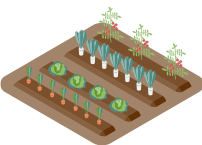
「気づき」による健康管理

セラピープログラムを通じてストレスとの向き合い方を学ぶことができます。



企業の社会貢献・SDGs

企業としてまちづくりに携わり社会貢献に取り組めます。



憩うまちこうみ

リ・デザイン セラピー

企業のメリット

町のメリット



関係人口増による活性化

定期的に訪問いただき町民と交流していただくことで町が活気付きます。



地域経済の活性化

セラピープログラムや施設、特産品の販売促進によって地域経済の活性化に繋がります。



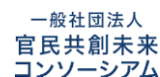
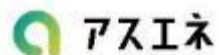
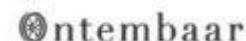
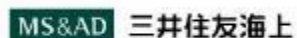
特産品の利用促進

社員食堂での食材使用などつながりを通じ、特産品の利用促進につながります。



都市部ネットワークの獲得

都市部のアイデアの獲得やネットワーク形成に繋がります。



小海町協定企業
R7年2月現在

28社

Ⅱ．モデル事業の実施内容

森と水の共生・岩魚養殖と水環境体験ツアー

- 「憩うまちこうみ事業」による森林利活用や森林保全の取組と水資源を活かした養殖事業にフォーカスをあて、自然資源の循環を体験・体感・学ぶツアー造成を通じて、地域の魅力を多面的に発信し関係人口による環境保全活動モデルを構築する。



憩うまちこうみ事業「森林セラピー」



町内IT事業者による湧水活用の養殖事業



光学式レンズを用いた環境教育

株式会社さとゆめでは、これまで小海町とともに「憩うまちこうみ事業」において、森林セラピストをはじめとした地域住民の育成や、飲食店や宿泊施設でも健康に配慮した料理の提供ができるように事業展開を行うと同時に、協定企業のマッチング支援も行ってきた。その関係でまだ協定に至っていないもの、光学式レンズメーカーのサステナビリティに取組む社員の方々にも小海町に訪いただき、町内の自然資源を活用した水環境の指標となる水生生物の顕微鏡による調査などを検討している。

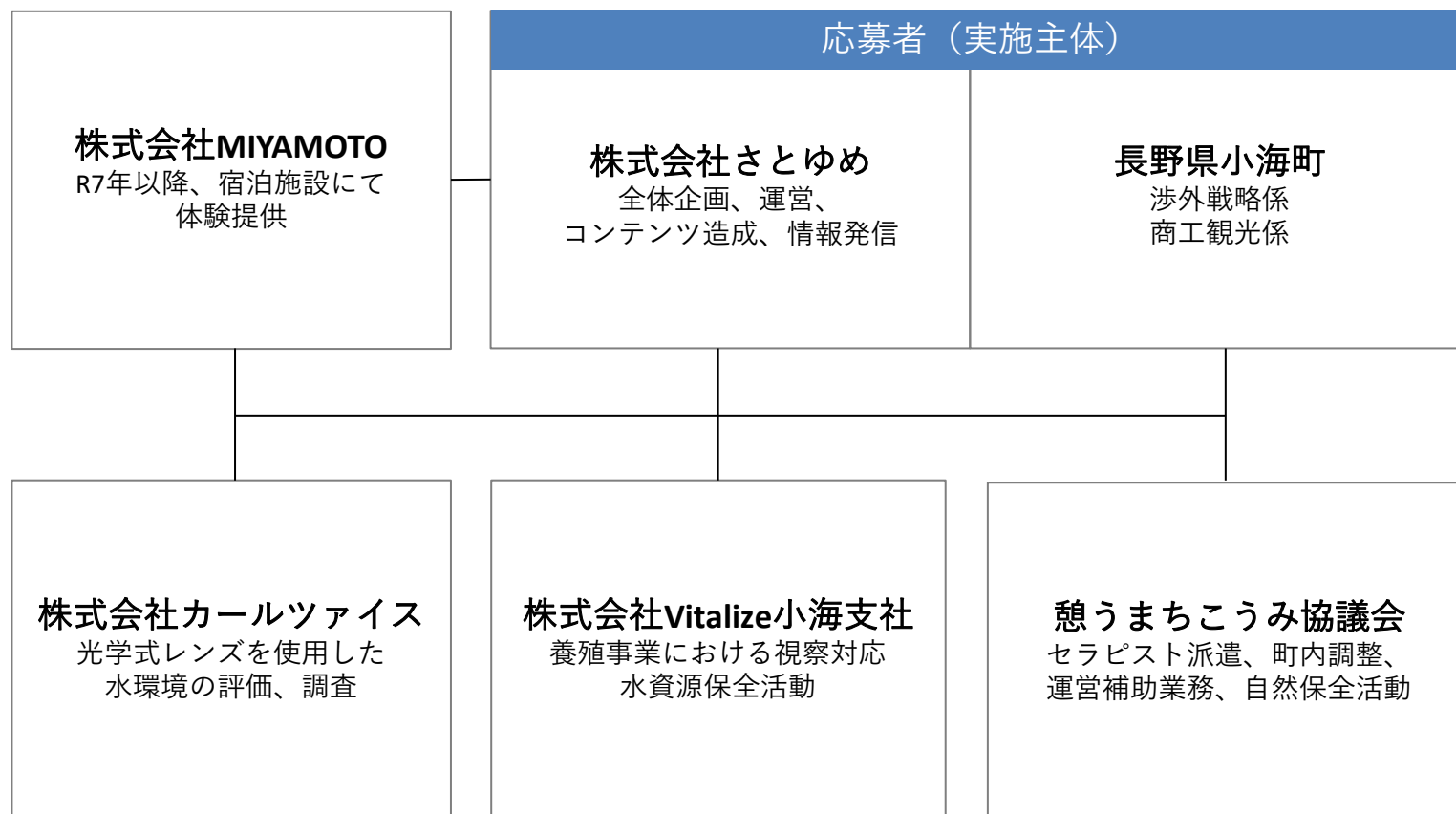
また、小海町は2023年3月にゼロカーボンシティ宣言を行い、さとゆめでは町のゼロカーボン推進の支援も行っており、町のゼロカーボンの取組を発信するイベントの実施など支援してきた。

さらに、小海町内に支店を持つIT事業者、株式会社Vitalezeが手がけるイワナの養殖事業を活用とした取組を推進し、限界集落である五箇エリアの生物保全を守る取組を継続的に行い、高齢化による地域自然保全の担い手不足の解消を目指す。

モデル事業フィールドと取組の展開イメージ

10

長野県 小海町	観光・生活圏		町民	町外	取組	展開
五箇 エリア	限界集落 信州の水50 選	10世帯以下と少ない集落で、65歳以上の高齢者が多いエリア。 2022年より町内のIT事業者が使われていなかった養魚場を利活用し、イワナ養殖を展開。 昔はワサビ栽培などを取り組んだ時期も。	現在、6世帯のみ。町民でもなかなか訪れることは少ない。高齢化も進み、今後住民での環境保全の継続が懸念される。	公共交通機関が少なく、国道からも離れており、目的地となることは少ない。	町内のIT事業者が活用されていなかった養魚場を再活用し、岩魚養殖を再開。 水が綺麗すぎる＋水温が低いためニジマスは生育に向かなかった。現在は住民による清掃活動などが中心。	65歳以上の住民が多く、環境を維持するのが困難になりつつあるため、関係人口による少人数ツアーなどを通して水の豊かさを伝えるとともに、自然共生サイトに登録し、企業や関係人口に保全の担い手を確保する。
松原湖 エリア	観光エリア 国定公園 (八ヶ岳中 信高原国定 公園)	憩うまちこうみ事業の拠点であり、冬は全面結氷の湖面でワカサギ釣りで賑わう。	夏の水中花火などのイベント時には訪れるものの、平常時の町民の憩いの場とはなっていない。	町と協定を結ぶ企業の研修の場として活用されている。	標高1,123mに位置し、松原湖を活動拠点とし、森林を利活用したセラピーウォークやヨガなどのヘルスツーリズムを都市部企業向けに展開。	自然環境や生物多様性を学ぶ場所として、これまでのtoB向けから、親子向けなど新たな出口展開を検討。 R7年度以降実施予定。



モデル事業実施スケジュール

12

項目	2024 (R6)												2025 (R7)									備考					
	8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月				3月				
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下		上	中			
(1) モニターツアー実証実験を通じた良好な環境の保全・創出活動体験ツアー造成																											
良好な環境の保全・創出活動体験に関するプログラム検討																											
良好な環境の保全・創出活動体験に関するプログラム検討	第1回用プログラム検討			第2回用プログラムブラッシュアップ						プログラムブラッシュアップ																	
ツアー造成				試作ツアー造成						モニターツアー実証実験を踏まえたツアー造成																	
ツアーの商品化や持続化等の展開方策の検討													今後の展開方策の検討														
モニターツアー実証実験																											
第1回モニターツアー	準備、参加者募集			8/31 台風のため中止																							
関係者等デモツアー現地検討会 (第1回モニターツアー代替え)				アドバイザー声かけ			10/24-25開催																				
第2回モニターツアー				準備 参加者募集 (企業等の声掛け・広報)			11/2-3開催																				
アンケート・ヒアリング等調査	調査票検討			受入先ヒアリング等			調査方法検討・準備			受入先ヒアリング等 地域関係者との意見交換																	
調査結果の検証				台風のため中止																							
PRツールのプロトタイプ制作																											
写真・動画の撮影				撮影																							
PRツール プロトタイプ制作										体験プログラムツール作成																	
(2) 地域における良好な環境の保全・創出の担い手づくり																											
地域の環境保全意識を高めるためのワークショップ,セミナー定期開催化																											
ワークショップ,セミナーのアレンジ				準備、参加者募集			準備、参加者募集																				
ワークショップ,セミナーの開催																											
定期的開催の仕組みづくり										1回目検証			2、3回目検証			定期開催の仕組みづくりと体制検討・今後の準備											
地元学校・教育機関連携による環境学習プログラム提供に向けた検討・準備																											
地元学校・教育機関との連携検討							関係構築			地元小学校・美術館との連携相談			今後の連携・対応の検討、課題整理														
体制・仕組みの検討・準備等										定期開催の仕組みづくりと体制検討・準備																	

事業内容①モニターツアー実証実験を通じた良好な環境の保全・創出活動体験ツアー造成

13

■ 実施内容

- ・7月：地域関係者とともに五箇エリアにおける現地調査や今後の展望についてヒアリング
- ・8月：モニターツアー実施（移住者親子対象）※台風により中止
- ・10月：環境問題に対して興味・関心等ある企業へツアー体験・実証ヒアリング
- ・11月：モニターツアー実施（環境等に興味のある企業対象）
- ・12月～1月：PRツールプロトタイプ（地域資源に魅力訴求）を制作



■ 実施成果

地域連携の強化	・関係者との現地調査を通じて、地域の環境課題を洗い出すとともに魅力の再発掘。 ・地域住民との協力体制を構築する基盤を形成。関係人口による清掃活動も行っていく予定。
企業参加による成果	・環境問題に関心を持つ企業が地域の環境活動を体験し、持続可能な取組への理解。 ・参加企業と協業し、自然共生サイト登録に向けて調査を開始予定。
ツアー内容の構築	・森林セラピーや水生昆虫観察、養殖場見学など、地域の特性を活かしたツアー要素を構築。 ・プログラム記録として、写真や動画を収集し、将来のPRツールとして活用可能な素材を蓄積。
課題と教訓	・天候による中止を経験したことで、リスク管理や柔軟な対応策の必要性を確認。 ・参加対象の明確化。
今後の展望	・モニターツアーの内容を基にした継続的なコンテンツの取組検討。 ・さらなる参加者増加と地域環境保全活動への継続的な参加促進を目指した戦略を策定中。 ・本事業で作成したPRツールは、自然体験プログラムの充実化やツアー商品化時に活用。

事業内容①モニターツアー実証実験を通じた良好な環境の 保全・創出活動体験ツアー造成

14



参加者募集

2024年8月31日(土) 9:30~16:00



親子de 森林セラピーウォーク (松原町)

09:30 ▶ 12:30

想うまこうみ事業でも人気の森林セラピーウォークを親子で体験できます！
自然は見るだけでなく、匂いを感じ、音の育に耳を澄ませてみたり・・・
様々な自然の恵みを感じ、心豊かな自然体験ができます。

水源池de水生昆虫さがし・岩魚養殖場見学 (玉置公園) 13:00 ▶ 16:00



お弁当を食べた後は、水源池にて水生昆虫観察。
野外で生物観察用顕微鏡を使って観察ができます！
遠くを見れば、サンショウウオにも出会える
かも？イライラを解消する事ができる施設Vitalize
の養魚場にてイライラの解消について学びます。
たくさん歩いて、あそんで、学んだ後は、
自然の恵みを感じ、イライラの解消を試みます。



EVENT情報

日時：2024年8月31日(土) 9:30~16:00 (9:00~受付開始)
場所：松原町、玉置公園
集合：松原町駅南口 9:30集合
定員：5組(10名程度) ※上記に達し次第、締め切り
※お子様の対象年齢は小学生~中学生とさせていただきます。
参加費：無料(事前予約制)
※詳しくはお申込みフォームをご覧ください。

服装・持ち物

・暑い中では様々な動物がいます。虫が苦手な方は虫除けを塗ってください。
・虫除けスプレーなどにお金をかけないようご注意ください。
・歩きやすい、水がしみにくい靴がおすすめです。
・(お子様は可能であれば、お弁当はスニーカー、
水筒エリヤは長靴、ウォータースポーツがおすすめです。)
・飲み物、帽子、タオル、着替え

お問い合わせ先

shibuya@shibuya.com
担当：株式会社さとゆめ・松原
【主催・企画】小島町・株式会社さとゆめ

WEBお申し込み

https://forms.gle/PV77Zd8X7D1570w7
有償2次ダウンロードからアクセスできます。
【協力】想うまこうみ事業推進会・株式会社Vitalize



※モニターツアーは、開催中・今年度は良好な環境創出活動推進事業「森と水の未来、社会貢献と自然環境体験ツアー」の一環で実施いたします。

モニターツアー（移住者親子対象）プログラム検討・実施

実施予定日：8月31日(土) 台風のため中止

ターゲット：近隣の教育移住した親子

・リモートワーク企業のニーズなどを把握するため
・親子のニーズ把握するため

告知について

■チラシ

■さとゆめfacebook

配布場所：小海町町内10箇所

8月5日～

・記事投稿 8月9日～

・SNS広告 8月9日～

申し込み状況

お名前	お住まい	お子様の学校名・学年を教えてください	本モニターツアーをどこで知りましたか？
A(女性)	長野県外	茨城県小学校3年生男児	チラシを見て
B(女性)	長野県外	茨城県小学校3年生女児	友人・知人の紹介
C(女性)	長野県外	大人2名の希望 (今回のターゲットではないので辞退)	想うまこうみWEB
D(女性)	長野県外	茨城県小学校5・3年生男児	友人・知人の紹介
E(女性)	佐久穂町	大日向小学校5年生女児、保育園児	友人・知人の紹介
F(女性)	長野県内	信州大学教育学部附属長野中学校 1年女児	チラシを見て
G(男性)	南相木村	南相木小学校4年男児	友人・知人の紹介

定員に関しては8/19時点で定員に達したため募集は締め切りしました。

参加にあたってのコメント

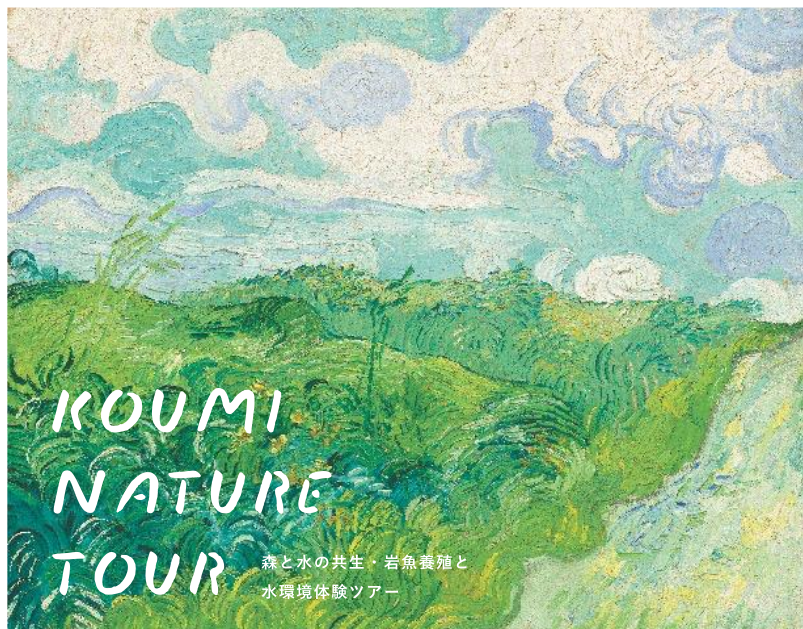
- ・いわなを食べてみたい!!
- ・参加希望の子どもが2人おります。
- ・美術館からご紹介いただきました。

台風のため残念ながら中止に・・・

9月以降、茨城県から参加申し込みいただいた家族から
ツアーの企画などないか問い合わせあり

事業内容①モニターツアー実証実験を通じた良好な環境の 保全・創出活動体験ツアー造成

15



イワナ養殖事業視察



イワナ養殖事業視察



地元セラピストによるセラピーウォーク



松原湖セラピーウォーク体験

環境問題に対して興味・関心等ある企業へデモツアー

実施日：2024年10月24日～25日

■1日目

・五箇湧水エリア視察

養魚場見学（株）Vitalize様
湧水の現地生物調査

・昼食

・松原湖セラピーウォーク

セラピストと湖畔を歩く

・湖畔の改修中施設の見学

■2日目

・小海町美術館見学

・滞在やプログラム、
自然資源の活用などディスカッション

・小海駅視察

※小海駅も現在町が運営のため

・小海駅2F（エキウエ）施設視察

参加者コメント

参加企業：住友林業緑化株式会社様、株式会社生活の木、
日本たばこ産業株式会社様、カールツァイス株式会社様 合計5名

- ・五感プログラムの可能性をもう少し広げてみても良い
- ・ESG対応の部署とまちとのコラボ
- ・自然資源が豊かなのでネイチャーポジティブに取り組みたい
ITや外資などの企業連携を強めていけると良さそう
- ・人を寄せる資源は十分にあるが、自然資源がありすぎるゆえ、
もう少しターゲットを絞りたい。
- ・企業のインセンティブツアーとしての活用も検討できる
（双眼鏡等光学式レンズ、精油などのロイヤリティ顧客向け）

事業内容①モニターツアー実証実験を通じた良好な環境の 保全・創出活動体験ツアー造成

16

モニターツアー（環境等に興味のある企業対象）プログラム検討・実施

実施：11月2日～3日（土日） **ターゲット**：企業でSDGs、環境問題等に取り組む方

KOUMI NATURE TOUR
水と森林が育んだ小湊町を舞台に
自然活用と新たな芸術事業を創造してみませんか

2024.11.2-3 SAT-SUN

こんな方におすすめ！
・自然環境の活用と興味のある方
・環境問題に興味のある方
・地域とともに発展を願う方
・芸術の創造に取り組みたい方

水と森林が育んだ小湊町を舞台に自然活用と新たな芸術事業を創造してみませんか

北八ヶ岳の麓の町々から見る風景、人とのふれあいや生活の営み、新たな可能性への挑戦など、体験を通じて“可能性”を考えた体験型モニターツアー「自然と小湊町をフィールドとして様々な体験を通じて新たな芸術の一歩を考えるツアー」。

お申し込みフォームはこちら
<https://forms.gle/2j4qzW1a656W9419>

【主催】小湊町 企画・実行委員会 【協賛】 小湊町観光協会 小湊町観光協会 小湊町観光協会

タイムスケジュール 雨天は雨天、予定は変更される場合があります。

11月2日 (11/2 土曜日)	11月3日 (11/3 日曜日)
11:00 集合・小湊町集合	07:00 集合
11:15 ランチ・サロニエ・カフェ	09:00 松林園で自然をリブリーク
11:30 五重塔にて自然観察と水生昆虫観察	11:30 自然
12:00 町内・町外を自然観察と水生昆虫観察	12:30 飯沼山、今風の自然と環境の観察など
13:30 松林園の自然観察とデモンストラ	14:00 小湊町公園
15:00 夕食	14:30 小湊町公園・小湊町公園
16:00 解散	

小湊町公園をのぞく小湊町公園
小湊町公園をのぞく小湊町公園
小湊町公園をのぞく小湊町公園

小湊町公園をのぞく小湊町公園
小湊町公園をのぞく小湊町公園
小湊町公園をのぞく小湊町公園

小湊町公園をのぞく小湊町公園
小湊町公園をのぞく小湊町公園
小湊町公園をのぞく小湊町公園

告知について

■さとゆめfacebook

■メール送付

10月7日～

80名ほど送付

■SNS広告

10月7日～

広告ターゲット設定

・年齢：30～64歳

・性別：男女

・地域：首都圏（1都3県）、山梨県、群馬県、長野県、新潟県、富山県、石川県、福井県（北陸新幹線沿線地域を設定）

・利用層：CDP登録企業、管理職

・興味関心：環境問題、ネイチャーポジティブ、ヘルスツーリズム、アドベンチャー旅行、自然、地域社会の問題、SDGs、森林活用、地方創生

参加者

・ガラスメーカー 30代女性（千葉県）

・フリーランス 30代女性（長野県）

・食品メーカー 30代女性（山梨県）

事業内容①モニターツアー実証実験を通じた良好な環境の 保全・創出活動体験ツアー造成

17



水生生物観察前の講義



サンショウウオの卵を発見



サンショウウオの卵を顕微鏡を使って観察



顕微鏡で観察する対象の採取



セラピーウォーク途中のティータイム



ルーペで葉脈を観察



手付かずの原生林と500種類の苔

事業内容①モニターツアー実証実験を通じた良好な環境の保全・創出活動体験ツアー造成

18

モニターツアー（環境等に興味のある企業対象）プログラム検討・実施

参加後アンケート

湧水地での活動について

水生昆虫観察（採取）について、どの程度楽しめましたか？

非常に楽しめた

水生昆虫を指標とした水質調査について、どの程度理解できましたか？

よく理解できた

この活動を通じて、水環境や生態系について新しい発見がありましたか？

はい

- ・雨の中であつたが、水生昆虫を探す時間はとても童心にかえり夢中になった。都心では普段見られないようなサンショウウオや成虫のカゲロウをみられたのはとてもいい機会となった。
- ・子供の頃、顕微鏡では見えるか見えないかよく分からずに見ていたが、専門家監修のもと、見れる状態に顕微鏡をセッティングしてくださり、またモニターを通して小さな生き物を観察でき感動しました。
- ・長らく活用されていなかった養魚場を再生させ、本業も別に持ちながら地域のタンパク源を作りたいという取り組みはすごく素敵に感じました。夕食に命の循環を味わえることができ貴重な体験となりました。

環境保全に対する意識の変化

このツアーを通じて、環境保全への意識がどのように変わりましたか？

非常に高まった

今後、ご自身で環境保全に取り組みたいと思いましたか？

- ・企業でのサステナビリティの考え方として現地で体感するというのが非常にわかりやすいと思ったので今後、企業研修として社内で検討したい。
- ・難しい考え方をするのではなく、リフレッシュしながらウェルビーイングを考えるととてもいい機会となった。また、食品メーカーとしてVitalizeの儲けの10%を地域関連/社員関連につかう姿勢をきいて、お互い頑張ろうという気持ちになった。
- ・水がとてもきれいな町ということがわかったので、守るための取り組みを継続して行なってほしい。

企業との連携について

今回のツアーで、企業が環境保全活動に関与することの重要性をどの程度感じましたか？

非常に感じた

企業との連携を通じた環境保全活動に期待することがあれば教えてください。（複数選択可）

資金提供や支援

専門的な技術や知識の提供

広報や啓発活動への協力

地域住民や他の団体との橋渡し役

企業独自の製品やサービスを活かした取り組み

今後、企業と地域が連携して行う環境保全活動に参加したいと思いますか？

はい

今後の課題

今回はプログラムの一部に外部からの専門家を講師としてお願いしたが、地域住民を交えた取り組みにしていく必要がある。

出口戦略として、現在開業に向けて改装中の松原湖畔の宿泊施設MIYAMOTOをはじめ町内の宿泊や観光施設と連携し、プログラム商品として造成し、企画・販売・運営を行っていくようにしっかりとモデルを詳細設計する。

事業内容①モニターツアー実証実験を通じた良好な環境の 保全・創出活動体験ツアー造成

19

PRツールプロトタイプ制作

制作のねらい

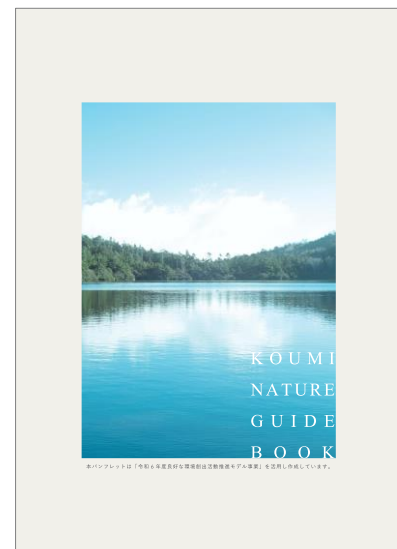
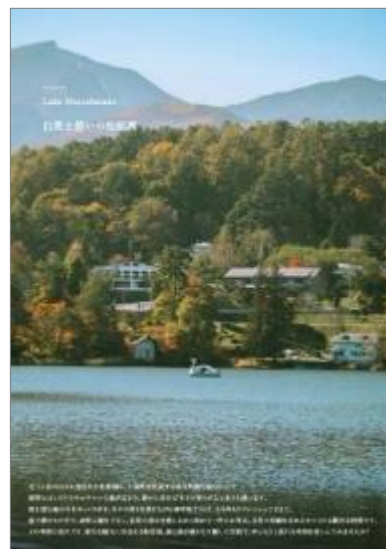
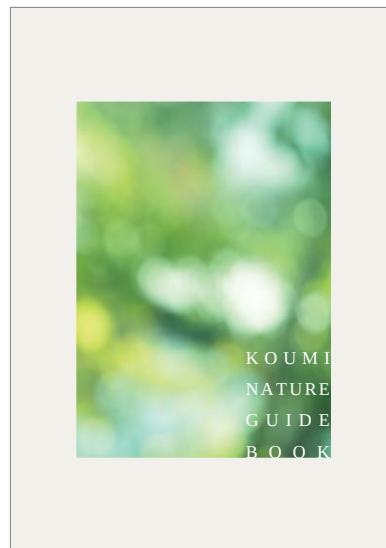
造成した湧水・環境保全体験ツアーを展開していく際に、体験する地域資源の魅力を訴求するための汎用基本コンテンツをプロトタイプとして制作

制作のポイント

- ・本事業内のモニターツアー・デモツアー等を通じ撮影・情報収集した魅力的なコンテンツを集約
- ・ビジュアルを重視し、直観的に魅力を訴求し、興味を喚起できるように制作・編集
- ・町の「憩うまちこうみ」事業のパンフレットと同サイズとし、セットでのツール展開を想定

今後の展開・活用

- ・今回の事業で夏～秋にかけてのコンテンツを集約。今後、冬～春の素材収集や動画・静止画撮影などを継続的に素材収集・集約・発信していく予定
- ・2025年に開業する宿泊施設等に設置し、来訪者や町の協定企業の研修時に小海町の自然資源の紹介コンテンツとして活用
- ・地域資源の魅力を訴求する当該PRツールプロトタイプにプログラム内容や費用等の情報を組み合わせる想定



事業内容②地域における良好な環境の保全・創出の担い手づくり

20

■ 実施内容

- ・水資源の保全活動ならびに、顕微鏡を用いての水質調査や水生昆虫調査などを定期的に行い、地域の環境保全意識を高めるためのワークショップやセミナーを実施（本モデル事業期間内に4回開催し、今後の定期的開催への仕組みづくり。調査やワークショップ・セミナーに際し専門家を招聘。）。
- ・これらの活動を通じて、地域住民や参加者に対して水資源の重要性や保全方法についての教育を行い、持続可能な環境保全や良好な環境の創出に向けて実践。また、地元学校や教育機関と連携して、子供たちへの環境教育プログラムを提供し、次世代の環境活動の担い手を育成することを目指し、体制・仕組みの検討・準備等。

■ 実施成果

地域住民および

参加者への意識向上

- ・水生昆虫調査を通じた水質調査により、地域住民、ツアー参加者へ水資源や環境保全に対する理解促進。
- ・専門家を招聘し、根拠に基づく知識を共有することで、地域住民の環境意識向上に寄与。
- ・町民を巻き込み、住民以外の来訪を促し、五箇エリアの自然の豊かさを認識共有化。

教育機関との 連携の試み

- ・地元小学校へ取組を紹介するとともに、次年度以降の連携可能性について意見交換。
- ・次世代への環境教育を目的としたプログラムの試験的实施（次年度）を計画。
- ・R7年度、教職員向けのセラピーウォークを実施予定。町内遠足にてセラピー体験の提供を想定。

自然共生サイト登録に 向けた基盤づくり

- ・今後、世帯減少とともに湧水周辺環境の維持が困難になることが予想される五箇エリアにおいて自然共生サイト認定申請に向け、デモツアーに参加いただいた企業と連携しながらモニタリング調査を予定。
- ・地域における活動内容を明確にし、企業が参加したくなる魅力の訴求に継続的に取り組む。

事業内容②地域における良好な環境の保全・創出の担い手づくり

21

■ 関係団体との意見交換



小海町高原美術館（学芸員）

- ・年間の企画スケジュールと組み合わせで体験イベントを企画することも可能。（実施に向けては日程・企画要相談）
- ・近隣の教育機関と連携しているため（遠足利用・出張授業等）と組み合わせでいっても面白いのではないかと。

小海小学校（教頭先生）

- ・校外学習のテーマ：担任の趣味嗜好によるため、担当教員に自然教育についてのヒアリング等が必要
- ・1年生の秋の遠足に松原湖（落ち葉拾い）＆美術館がある。そのタイミングでは検討可能
- ・（小海町職員）学校に来られない子どもの興味ある体験・学びきっかけとしての可能性はどうか（懸念事項）時間と移動のハードルが高い。

五箇地区住民（区長他1名）

- ・昔はわさびの栽培もやっていた。高齢化で安曇野市のわさび栽培事業者に委託したが、水温が低く、病気になってしまいやめてしまった。もう一度、わさび栽培をするにしても集落の高齢化が進み、集落の人間でやることは不可能と思っている。
- ・昔は小学校、保育園の子どもたちも湧水や用水路を見にきていたが最近（数十年）は来なくなってしまった。子どもたちを湧水に連れてくるのは別に構わない。
- ・活用されていなかった養魚場を復活させ、イワナを育てるVitalizezはいい取り組みをしていると思うし、地区の清掃活動と一緒にやってくれることもある。
- ・湧水のありがたみを理解しているが、このまま廃れていってしまうのは勿体無い。
- ・湧水エリアは個人の土地所有としていたが、世帯数が少なくなるにつれて、町での管理も増えてきている。（個人所有地も残っている）

関係者での次年度以降の展開

- ・近隣教育機関との連携では授業時間に限りがあるので、コースの設定を再確認（4月以降に小学校教職員向けに体験会を実施するため再度小学校訪問）
- ・町内、近隣町村の子どもたちは保育園～中学校まで一緒のため、町内に高校があっても外へ進学してしまう。（限られた人間との関わりしかないので）
- ・協定企業に特色のある出前授業等を行うことで、環境保全と子どもたちの未来を一緒に育てていきたい。関係者の人材不足のため、小学校、中学校、高校等へ徐々に拡大へ。

Ⅲ. 成果と今後の課題・展望

■ 五箇エリア

- ・30年以上前までは町内の子供達が湧水見学などに訪れていたが、近年は町民でも住民以外ほとんど訪れることがなく、世帯数も減少し、高齢化により保全活動も難しくなりつつあるため、町民や協定企業との連携によりゴミ拾いや湧水保全活動を継続実施し、継続的に住民以外が関わりシロを持つ。
- ・自然環境に関心のある企業に現地視察いただき、自然環境の豊かさを実感するとともに、今後について検討ができた。
- ・R6年来訪者数（住民以外）：延べ45名／R7年（目標）100名／R8年150名（企業連携により継続事業とする）

■ 松原湖エリア

- ・これまで、松原湖畔のセラピーウォークでは心身の健康を取り戻すことにフォーカスしてきたが、本モデル事業の取組みにより、セラピーウォークを案内するセラピストの自然環境に対する意識が醸成され、新たなコース造成が始まった。
- ・松原湖畔に新たに宿泊施設が2025年5月に開業するため、松原湖に訪れる観光客の環境保全に取り組む入り口として本事業で収集したPR素材を活用し、良好な環境の魅力を紹介するPRツールプロトタイプ作成に取り組めた。

小海町全体における波及効果

- ・健康経営としての企業のワーケーション利用だけでなく、環境保全プログラムとしての新たな出口戦略
→環境保全プログラムの提供により、新たな協定企業連携が見込まれる。
- ・持続可能な地域づくりの推進
→高齢化の進む五箇エリアにおいて、町民以外の関係人口を巻き込むことで、環境保全の持続可能性が向上。
- ・自然共生サイト登録への道筋
→環境保全活動の成果を基に、自然共生サイト登録を目指す動きが加速し、登録後にはさらに多くの企業や団体との協力が見込まれる。

■ 五箇エリア

- 課題**
- ・世帯減少とともに今ある自然は人の営みが失われることで荒廃していくことが懸念される。
 - ・自然共生サイト登録に向けて、エリア確定、年間通じてのモニタリング調査、関係者への自然共生サイト勉強会。
 - ・五箇エリアへの交通手段、モビリティ不足。

- 展望**
- ・自然共生サイトに登録することで企業や関係人口を巻き込んでいくことができるため、地区住民の保全活動における負担の減少が見込まれる。
 - ・環境配慮型のモビリティ企業との連携

■ 松原湖エリア

- 課題**
- ・現在、町との協定企業が環境保全に興味関心はあるものの、事業共創や環境保全活動には至っていない。
 - ・地元教育機関、学生の巻き込み不足。

- 展望**
- ・五箇エリアで養殖された岩魚を松原湖エリアの宿泊施設、飲食店にて供給を促進し、点を線につなげ発信していく。
 - ・メディアを立ち上げ継続的な情報発信をして環境保全の取組を知ってもらう機会を創出する。

■ 全体展望

- ・企業連携し、自然共生サイトの登録を進める。また、登録後は企業や関係人口で保全を維持する仕組みを構築
- ・松原湖エリア、五箇エリアに次いで新たな環境保全の対象エリア拡大（白駒池、八岳の滝、親沢地区など）
- ・子どもたちの自然、生物多様性の理解を深めるために多様な人との繋がり、企業パートナーの拡大

図1 小海町の産業振興と観光振興の連携の概要

株式会社さとゆめ

宿泊者・滞在者

活動エリア

企業マッチング支援

伴走支援

憩うまちこうみ事業

出資

連携

小海町

企業と連携・協定

株式会社MIYAMOTO

小海SX field拠点

宿泊施設：MIYAM / OTO

体験コンテンツ窓口 憩うまちこうみ協議会

連携

岩魚の提供

森林利活用

宿泊・森林利活用

松原湖畔

・森林セラピーなど体験コンテンツ提供

・教育機関と連携した森林セラピーによる森林利活用

・共創事業の場としての活用（社会課題実証の場）等

連携

養護場見学ツアー依頼

株式会社Vitalize

・岩魚の養殖 ・遊休施設の活用 ・商品開発

環境保全活動

五箇区（高齢化・限界集落）

・岩魚養殖場の見学ツアー

・水生昆虫観察

・定期的な水質調査

・山間部の清掃活動

・水資源を活用した商品開発 等

連携

ツアー実施など

小海町高原美術館

セラー利用・提供

町民（セラピスト）

依頼

小海小学校

近隣教育機関

・小海中学校

・小海高校 等

協定

協定企業

共創パートナー連携

・水質調査支援 ・森林保全活動 等

R7年度以降の展開スケジュールイメージ



松原湖畔
宿泊施設開業



自然共生サイト登録

2025

2026

2027

五
箇
区

宿泊施設と連携した養殖事業見学・水生昆虫観察ツアー開催

地域の清掃活動

自然共生登録に向けた年間のモニタリング調査（水性生物・水質）

自然共生サイト登録へ

セラピーウォークのコース開発の現地検討会ならびに自然資源生かした商品開発の検討

松
原
湖
畔

toC向け体験販売（森林セラピー）

小海小学校での体験コンテンツの実証

近隣教育機関への実証・提供

来訪者に向けた情報発信

協定企業との森林保全活動・共創コンテンツの開発

白
駒
池
ほ
か

新たなコース、地域資源の調査・課題の抽出

体験コンテンツの造成・実証

体験コンテンツ販売

まずは町内の観光エリアである、松原湖エリアと五箇エリアを新たに開業する宿泊施設と連携し、資源や人が循環する仕組みを構築。八ヶ岳からの水源は町内に複数箇所存在するため、今後保全が難しくなるエリアや保護していくエリアを検討・調査し、保全と活用が循環する仕組みを拡大させていく。



五箇地区同様に関係人口による地域保全により、人口減少による荒廃を食い止め、自然環境を維持していく

課題 子どもたちの想像力低下などに関する影響

子どもの1日の
外あそび時間 **35年間で30%以上減少**



世の中に便利な物が増えて生活が快適になり、それにどっぷり浸かる子どもたちが増えてきました。一番育ちの旺盛な幼少年期に、運動に費やす時間と場が減少し、からだを使う機会がなくなると、子どもたちは発達の機会を逃してしまいます。これに、不規則な食事時間と偏りのある食事内容が加わって、生活習慣病や肥満、視力低下、運動不足など、様々な不調に陥る子どもたちが増加しています。さらに、社会生活の夜型化、共働き家庭の増加や勤務時間の延長も一因となり、幼児の生活リズムにまでくるいが生じ、国家的な危機と言える状況になっています。

外あそび推進の会より

子どもの想像力を育むため特に効果が期待される7つの方法

- 絵本の読み聞かせ
- お人形遊びでストーリーを作る
- 紙や箱など身近なものを使って工作しながら遊ぶ
- お絵描きや粘土で遊ぶ
- 色や形、音などの知覚的体験を与える
- 山や川、海など自然に触れる機会を増やす
- 色々な場所に連れて行く

参考：neighbor.fit（子どもの想像力（イマジネーション）を育む7つの方法とは？）

子どもたちが生物多様性を学ぶ場として活用



ハケ岳山系の
水源を理解し
地域の農家を
訪ね、食卓に
並ぶ野菜栽培
を知る



湧水地を訪ね、
水生昆虫の観
察会や岩魚養
殖見学で水資
源の可能性を
知る



松原湖で自然に触れる体験を増やし、あそびの感覚から自然に触れる機会を創出する。

植物の匂いを嗅いでみたり、葉っぱや苔など地衣類の観察、水の流れる音を聞いてみたり、笹舟をつくり水の流れに流してみたり、自然の中からあそびを見つけ子どもたちの想像力を養う。

社会課題解決

未来を創る力を育む

人口減少により、地方部では集落の住民によって維持してきた環境保全が困難になることが予想される約30社と企業連携があり、自然環境が豊かな状況を維持するための関係人口による先進事例にしていく

小海町が目指す、関係人口による「森・水資源の最適化」

これまで、小海町の五箇地区では地域住民による、湧水の保全活動（清掃活動等）を行ってきたことで豊かな自然資源が守られてきました。しかし、高齢化や人口減少などにより過疎化が進み近い将来、地域住民による保全活動が困難となり、自然環境・生態系の崩壊が予想されます。サンショウウオなどが生息する豊かな水資源を守るため、小海町で取り組んできた都市部企業との連携を活かし、関係人口による保全維持を目指します。

国内で問題になっている森



生態系が保たれた現在の五箇地区



人口減少により放置が進み、いずれ崩壊につながる

地滑り

生態系

河川が堰き止められ
災害に

希少な動植物の減少
森の生き物は街へおり問題に

今後も保全を
維持して
いくために



地区住民

- ①地区の清掃・保全活動
- ②環境保全イベントで湧水の歴史や地区環境を語ってもらう
- ③自然共生サイト登録に向けて理解醸成

小海町

- ①自然共生サイト登録に向けて行政が主体となって推進
- ②協力企業との連携

さとゆめ・MIYAMOTO

- ①環境保全等を推進する企業と町のマッチング支援
- ②地区の清掃・保全活動参加
- ③環境保全イベントの企画・運営等

企業や関係人口

- ①自然共生サイト登録に向けた調査支援
- ②企業の顧客インセンティブツアーや環境教育ツアーとして活用

町民（地区居住者以外）

- ①自然体験イベントへの参加（環境調査等）



今後、失われるであろう保全活動人材を関係人口で補完し、地域の自然環境・生態系をまもる。
また、企業としてもネイチャーポジティブ活動に繋がることで、win-winの関係性とする。

ゆくゆくは自然環境を活かした商品開発等にも繋げていく